

一般社団法人日本 LD 学会 第 30 回大会（神奈川）のご案内

テーマ:LIFE, LOVE, LD—知の創造, 情の共有から育むそれぞれのこれから—
会期:2021年12月10日(金)~12日(日) ※10日はプレングレス(参加費無料)のみ
会場:オンライン ※パシフィコ横浜から配信
大会ウェブサイト: <http://conference.wdc-jp.com/jald/2021/>



第30回大会（神奈川）の開催にあたって

LIFE, LOVE, LD

—知の創造, 情の共有から育むそれぞれのこれから—

第 30 回大会会長

国立特別支援教育総合研究所

海津 亜希子

みなさんいかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍という私たちが経験もしなかった世界に不安が拭えない日々ですね。

当たり前と思っていた幸せや日常がそうではないことに気づかされることも。

一方で、だからこそ、気づけることもあるかと思うのです。いつどうなるかわからない世の中。その中で普遍的なもの。それがベタすぎますが、“LOVE”かなど。互いを思いやること、自分が必要とされていることに感謝すること、そして何かに一歩踏み出せることを祝福すること。

新しい生活様式というのも耳慣れてきましたね。3密を避けるといった様式だけでなく、価値観自体の変化も問われています。私たち自身のこれから、そして関わる子どもたちや人々とのこれからのについてもじっくり考えていくこと。つまり生活様式だけでなく、生き方も考えていく。それが“LIFE”に込められています。

そして最後の“LD”。私たちはこのキーワードでつながっています。とても大切なワードですね。

少し斬新過ぎる感もありますが、このような前代未聞の時代だからこそ、あえて固定観念にこだわらず、LIFE, LOVE, LDで第30回大会は皆さんと一緒に次のステップへと歩み出したいと思っています。

今回、第30回大会（神奈川）のご案内をみなさんにお届けすることができました。

オンライン開催でのメリットを存分に活かして、また30回大会という記念すべき年であることもあり、例年よりも多くのプログラムを用意することができました。魅力的なプログラムばかりで実行委員もワクワクしながら準備しているところです。

みなさんが少しでも参加しやすく、また「参加してよかった」「またがんばろう」と思ってもらえるような大会になるよう引き続き尽力していきます。どうぞ楽しみに。

お問い合わせ先

○参加申込・発表申込について

一般社団法人 日本LD学会 第30回大会運営事務局
〒162-0801東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
E-mail: jald-taikai30@bunken.co.jp

※ 発表申込、発表原稿の提出、参加申込はすべてWEBからのお申し込み、ご入稿となります。身体等に障害をお持ちの方でWEBからのお申し込みが困難な方は、上記、第30回大会運営事務局までお問い合わせください。



I. プログラム

※ 講演テーマは現時点の「仮題」となっております。

■2021年 12月 10日(金)

(1) 一般公開講演会【ライブ配信】

「小児科医のぼくが伝えたい 最高の子育て ―発達障害のある子どもをはぐくむ皆さんへ―」

高橋 孝雄 (慶應義塾大学医学部 小児科学教室)

■2021年 12月 11日(土)～12日(日)

(2) 特別講演【オンデマンド配信】

1. Response to Intervention (RTI) and Multi-tiered Systems of Support (MTSS):How We Can Improve Academic Outcomes for All Learners

全ての子どもにとっての学習効果をあげるために私たちができること

Sharon Vaughn (Executive Director, The Meadows Center for Preventing Educational Risk

Manuel J. Justiz Endowed Chair in Education, The University of Texas at

Austin)

2. The Association of Learning Disabilities and Attention Deficit Hyperactivity Disorder: Implications for Assessment and Treatment

LDとADHDの関連性に関する最新の知見から:アセスメントおよび対応への示唆

Shruti Rane (Clinical Neuropsychologist, Kennedy Krieger Institute)

(3) 大会企画シンポジウム【ライブ配信】

1. これからの学び、これからの価値観

司 会 涌井 恵 (国立特別支援教育総合研究所)

話題提供 原田 浩司 (筑波技術大学客員研究員 (元小学校校長))

話題提供 柘植 雅義 (筑波大学教授 / 日本LD学会理事長)

話題提供 長尾 彰 (茂来学園大日向小学校理事/株式会社ナガオ考務店代表取締役)

指定討論 鈴木 寛 (東京大学大学院公共政策大学院教授 / 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 (元・文部科学副大臣、前・文部科学大臣補佐官))

2. 通常の学級での学び(多層指導モデルMIM:地域ワイドでの実践)

司 会 海津亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)

話題提供 西内 一裕 (相模原市教育委員会)

話題提供 本多 俊介 (相模原市立緑台小学校)

話題提供 渡邊 春菜 (相模原市立九沢小学校)

指定討論 鶴田 恵市 (長野県立稲佐山養護学校/元長野県教育委員会)

3. 通常の学級での学び(多層指導モデルMIM:異教科, 異単元へのMIMの適用)

司 会 松本 秀彦 (高知大学)

話題提供 栗原 光世 (西東京市立住吉小学校)

話題提供 岩田 裕輔 (相模原市立緑台小学校)

話題提供 内田 利幸 (鳥取県大山町立大山中学校)

指定討論 丹治 敬之 (岡山大学)

4. 発達障害における二次的な障害の理解と予防・低減に向けて(学校教育との連携から)

司 会 井上 秀和 (国立特別支援教育総合研究所)

海津亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)

話題提供 西村 浩二 (広島県発達障害者支援センター)

話題提供 福岡 秀一 (瀬戸少年院 首席専門官)

指定討論 田中 康雄 (こころとそだちのクリニック むすびめ / 北海道大学 名誉教授)

5. 発達障害における二次的な障害の理解と予防・低減に向けて(通級による指導を切り口に)
- 司 会 伊藤 由美 (国立特別支援教育総合研究所)
 玉木 宗久 (国立特別支援教育総合研究所)
- 話題提供 山下 公司 (札幌市立南月寒小学校)
- 話題提供 伊藤 陽子 (仙台市立八乙女中学校)
- 話題提供 相川 賢樹 (埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園)
- 指定討論 田中 康雄 (こころとそだちのクリニック むすびめ / 北海道大学 名誉教授)
6. ライフステージをつなぐ支援—卒業後の就労を見据えて、小学校段階からできること—
- 司 会 榎本 容子 (国立特別支援教育総合研究所)
- 話題提供 新堀 和子 (LD等発達障害児・者親の会「けやき」)
- 話題提供 新堀 隼 (東京海上ビジネスサポート株式会社 *発達障害当事者)
- 話題提供 小学校時代の学級担任
- 指定討論 武澤 友広 (障害者職業総合センター研究部門 (障害者支援部門))

(4) 教育講演【オンデマンド配信】

【研究との連動による教育実践】

1. 研究との連動による教育実践
 山森 光陽 (国立教育政策研究所)
2. 発達障害児・者の自己調整学習
 伊藤 崇達 (九州大学大学院)

【学びへのアクセス】

3. 学びへのアクセス(大学入試受験上の配慮について)
 上野 一彦 (東京学芸大学 名誉教授)
4. 学びを支える文房具とICT
 杉浦 徹 (東北福祉大学教育学部)

【二次的な障害の予防に向けて】

5. 発達障害の二次的な障害
 渥美 義賢 (国立特別支援教育総合研究所 / 由比ヶ浜こころのクリニック)
6. 矯正教育における特別支援的アプローチ
 山下 嘉一 (多摩少年院 首席専門官)

【切れ目ない支援】

7. 幼児期からの支援
 滝口 圭子 (金沢大学)
8. 学校卒業後を見据えた支援 — 自己理解と進路選択に焦点を当てて—
 知名 青子 (障害者職業総合センター研究部門 (障害者支援部門))

【施策動向】

9. 国の発達障害に関する教育施策
 加藤 典子 (文部科学省初等中等教育局)
10. 厚生労働省における発達障害者支援施策について
 加藤 永歳 (厚生労働省社会・援護局)



(5) 各委員会等による企画セッション

1. 学会企画 日本LD学会30周年記念シンポジウム (ライブ配信)
2. 研究委員会 (ICT WG) 企画セッション (ライブ配信またはオンデマンド配信)
3. 研究委員会企画セッション (ライブ配信またはオンデマンド配信)
4. 国際委員会企画 海外講演 (ライブ配信)
5. LD-SKAIP委員会企画 シンポジウム (ライブ配信)
6. 被災地支援委員会企画 被災地支援委員会調査報告 (オンデマンド配信)
7. 広報委員会企画セッション (Webポスター&オンデマンド配信)
8. アクセシビリティ委員会企画 (大会ウェブサイト上に特設ページを設置)
9. 全国LD親の会企画 シンポジウム (ライブ配信)

(6) 特総研リレー【オンデマンド配信】

「LIFE, LOVE, LD－知の創造、情の共有から育むそれぞれのこれから－」という本大会のテーマを踏まえ、LD等の発達障害のある子どもたちに対し、各ライフステージにおいて育むことが期待される学びと、そのために求められる取組等について、国立特別支援教育総合研究所の（特総研）OB、OGに、リレー形式で講演を依頼しました。ちなみに今年で特総研は50周年になります。

【幼児教育】

1. 乳幼児期の発達障害:就学までの支援の在り方

原 仁 (青い鳥小児療育相談センター)

【初等教育】

2. 通級による指導(保護者支援を含む担当者の役割)

小林 倫代 (国立特別支援教育総合研究所 名誉所員)

3. 通常の学級での支援

梅田 真理 (宮城学院女子大学)

【中等教育】

4. 二次障害に陥った発達障害のある子どもの認知的評価とストレスコーピング

武田 鉄郎 (和歌山大学教育学部)

5. 思春期とレジリエンス

植木田 潤 (宮城教育大学教職大学院)

【高等教育】

6. 高等教育における障害学生支援

佐藤 克敏 (京都教育大学教育学部)

【ライフステージ横断】

7. ライフステージを通じたICT活用による学習支援 ―コロナ禍で要求される新たな展開と役割―

落合 俊郎 (広島大学 名誉教授)

【総論】

8. 今後のLD教育の展望

柘植 雅義 (筑波大学 / 日本LD学会 理事長)

(7) その他

理事長講演、大会会長講演、受賞者講演、自主シンポジウム、ポスター発表、他

※ 都合により演題・内容が変更になる場合がございます。

※ 詳細は、大会ホームページ(随時更新)にてご確認ください。



II. 発表申し込みについて

(1) 発表形式

1. 自主シンポジウム【オンデマンド配信】

会員の自主運営によるシンポジウムです。動画コンテンツのオンデマンド配信となり、事前に講演動画（mp4形式、60分程度）を提出していただきます。質疑応答はZOOMを使った「質疑応答会場」でのライブ配信（40分）、または、質疑応答システム（WEB上掲示板ツール）を利用します。テーマの設定は自由です。発表申込時には、発表抄録：2000～2500文字以内、要旨：300文字をご提出ください。採択された場合、後日、企画開催費（13,000 円）をお支払いいただきます。

2. ポスター発表【誌上発表】

発表内容をスライド形式のPDF12枚以内で作成してください。質疑応答システム（WEB上の掲示板ツール）を利用します。WEB上テキストにて、自由に討論していただきます。発表者は質問に対し、必ずご回答ください。発表申込時には、発表抄録：2000～2500文字以内、要旨：300文字をご提出ください。採択された場合、後日、研究発表費（5,000 円）をお支払いいただきます。

(2) 発表の資格・条件

1. 自主シンポジウム企画者ならびにポスター発表筆頭者は、申込時および大会開催時に、本会の「正会員」もしくは「名誉会員」の方に限ります。自主シンポジウムの司会者・話題提供者・指定討論者、ポスター連名発表者は会員に限定しませんが、大会参加費の事前納入が必要です。
2. 自主シンポジウムは企画者が、ポスター発表は筆頭者がお申し込みください。申し込みは 1人各1題に限ります。
3. シンポジウム等への登壇（司会者・話題提供者・指定討論者）や、ポスター発表（筆頭者）は、原則として 1人3回までとします。

(3) 申し込み手続き

1. 申し込み方法

会員専用マイページの「大会／研修会情報・申込」よりお申し込みください。

2. 発表原稿の提出方法

原稿の提出は、インターネットからのオンライン登録に限ります。発表申し込みが完了すると、登録URLを記載したメールが配信されます。

※ ホームページに、「個人情報・倫理についてのチェックリスト」を掲載します。チェックリストをご確認の上、原稿を作成してください。

※ オンラインフォームにテキストを入力してください。図表の掲載はできません。フォームに入力いただいた内容で発表原稿を作成しますので、入力内容に誤りがないようご注意ください。

3. 申し込み・原稿提出期間

2021年 4月 28日（水）～6月 30日（水）

※ 自主シンポジウムは申込上限を80本程度とします。申込時に、質疑応答を、ライブ配信で行うか、質疑応答システムで行うか選択してください。ただし、ライブ配信は上限を設けますので（30本程度）、質疑応答システムでの発表をお願いさせていただくことがございます。

※ 期限までに原稿の提出がなされなかった場合は、申し込みを取り消します。

※ 提出された原稿は、実行委員会にて審査し、審査結果をお知らせします。

※ 発表の詳細は随時お知らせいたします。

III. 参加申し込みについて

(1) 参加申込詳細

一部、企画講演はパシフィコ横浜にて、ライブ開催いたしますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、原則、「オンライン参加（視聴）の受付のみ」となります。会場での視聴参加、また、会場での当日参加受付は行いません。

1. 申し込み方法:

- ・ 会員: 会員専用マイページの「大会／研修会情報・申込」よりお手続きください。
- ・ 非会員: 大会ホームページの申し込みフォームよりお手続きください。

2. 申し込み期間: 6月からの申込開始を予定しております。

3. 参加費等の諸費用の納入期限: 準備中
4. 領収書: 諸費用を納入後、会員の方はマイページから、非会員の方は申し込みフォームから、ご自身で発行してください。大会終了後は発行できませんのでご注意ください。
5. 参加証: 必要な方は、諸費用を納入後、会員の方はマイページから、非会員の方は申し込みフォームから、ご自身で発行・印刷してください。
6. 日付による申し込み区分:
早期申込参加費、通常申込参加費を設けます。ポスター発表の筆頭発表者・連名発表者、自主シンポジウムの企画者・司会者・話題提供者・指定討論者は、必ず早期申込参加費を納入してください。

(2) 会場参加とオンライン参加（視聴）について：

原則、「オンライン参加（視聴）での参加受付のみ」となります。会場参加の受付は行いません。また会場での当日参加受付も行いません。

IV. 諸費用

- ・ 納入いただいた大会参加費等の諸費用は返金いたしません。
- ・ ご不明な点がございましたら、お手続きの前に第30回大会運営事務局にお問い合わせください。

例年とは異なる料金設定にしております。オンラインによる開催で会場費が抑えられたこと、予定していた30周年記念行事が執り行われなくなったこと等による学会としての経費節減を参加費の減額として還元させて頂きました。また非会員の方も参加しやすい大会にすることで、多くの方々にとって発達障害に関する知見を深める機会を提供し、支援の輪がより広がり、豊かになっていくことを祈念しての料金設定となっております。

- **早期申込：受付開始（6月を予定）～9月30日（木）**
- **通常申込：10月1日（金）～12月12日（日）**

費目		早期申込 参加費	通常申込 参加費	
参加費	会員	一般	3,000 円	5,000 円
		大学院生	3,000 円	5,000 円
	非会員	一般	8,000 円	8,000 円
		大学院生	5,000 円	6,000 円
		学部生	4,000 円	5,000 円
		親の会	5,000 円	6,000 円
自主シンポジウム 企画開催費		13,000 円		
ポスター発表 研究発表費		5,000 円		

- ※ 2021年 12月 10日(金)開催のプレコンgressは参加費無料です。
- ※ ポスター発表の筆頭発表者・連名発表者、自主シンポジウムの企画者・司会者・話題提供者・指定討論者は、必ず早期申込に参加費を納入してください。
- ※ 採択された場合、企画者には企画開催費を、筆頭発表者には研究発表費をお支払いいただきます。

V. プログラム・論文集

第29回大会（兵庫）と同様に、プログラム・論文集の印刷・発送は行いません。WEBでの閲覧のみとなります。

会員および参加の事前申し込みが完了された非会員の方には、論文集の閲覧に必要なパスワードをご連絡します。

VI. その他

1. 交流会: 開催いたしません。(新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮)
2. 展示会: オンラインでの企業展示を予定しています。(会場での展示は行いません)
3. 託児室: 設置いたしません。(新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮)
4. 合理的配慮: 障害等により大会参加に関して配慮の必要な方は、2021年 9月 30日(木)までに、日本LD学会 第30回大会運営事務局にご連絡ください。
5. 宿泊の手配: 手配いたしません。(新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮)

一般社団法人日本 LD学会 個人情報・倫理についてのチェックリスト

このチェックリストは、投稿前の確認に使用してください。過去の実践や研究の発表を妨げるものではありません。回答は、発表抄録の投稿時にチェック入力してください。

1.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人を対象とした研究の場合、所属機関の研究倫理委員会の承認(小・中・高等学校等の場合、学校長・施設長に原則として書面にて承認)を得た上で、本文中にその旨を記載し、個人や対象機関が特定されないよう配慮している(必要に応じて、確認させて頂くことがあります) ○ 人を対象とした研究で所属機関の規定で倫理審査委員会がない、倫理審査が不要であった等の場合は、その状況を本文中に記載し、個人や対象機関が特定されないよう倫理的に配慮している。 ○ 人を対象とした研究ではない
2.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例が含まれる研究の場合、本人・保護者・対象機関等に書面にて研究発表(プログラムへの掲載、Web 論文集への掲載、当日の発表等)の同意を得た上で、本文中にその旨を記載し、個人や対象機関が特定されないよう配慮している(必要に応じて、書面の提出を依頼することがあります) ○ 事例が含まれる研究ではない
3.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究の発表については、共同研究者・連名発表者の同意を得ている ○ 共同研究者・連名発表者はいない
4.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 虚偽の記載・データの捏造・文章やデータの盗用をしていない
5.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原稿は、二重投稿・二重掲載をしていない
6.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引用がある場合、文献等の出典を明記している(○○, yyyy) ○ 引用がない
7.	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業からの資金や利益提供等がある場合、利益相反関係を原稿に明記している(産学連携を含む) ○ 企業からの資金や利益提供等はない